有限会社　北の大地

■　飼料部門の外部化と規模拡大を図る大型法人

〈法人の概要〉

所在地：〒098-6102　猿払村浅茅野台地 342-266

代表者：代表取締役　井上勝敏

構成員：8 名（構成農家 3 戸）

役員：3 名　　常時雇用者：4 名

設立年月：平成 15 年 4 月　資本金：950 万円

事業内容：酪農

牧草 225ha、乳用経産牛 433 頭、乳用育成牛 269 頭、
年間生乳生産量 4,030t（H22 年）

経営面積：225ha（H22 年）

売上高：4 億円(H22 年)

電話：01635-5-7088　FAX：01635-5-7177

〈法人のあゆみ〉

平成 15 年	有限会社北の大地設立
16 年	フリーストール牛舎建設
17 年	搾乳開始、経産牛 150 頭規模。構成員 8 名体制
19 年	雇用 2 名体制
21 年	乾乳牛舎増設
22 年	経産牛 400 頭規模に到達。構成員 8 名、雇用 4 名体制

〈設立の経緯・設立後の状況〉

・昭和 38 年に建てた牛舎が老朽化していたところ、農業大学校を卒業した後継者が就学中にフリーストールを体験しており、その整備を希望していた。

・個人経営で経産牛 100 頭規模を目指すなら 1 億円の投資が必要であること、および休暇が取得できるなど後継者のためになる農業経営を目指したかったことから、農家 3 戸（いとこ同士）で法人化を検討。

・法人設立にあたっての相談は、主に農協の営農部長と担当者にした。また、牛舎設計については農業改良普及センターからアドバイスを受けたほか、研修会や事例視察を重ねて検討を進めた。

・経産牛 300 頭(1 戸あたり 100 頭)をイメージしたが、農協の試算で収支が合わないことがわかり、経産牛 400 頭、年間出荷乳量 3,600tを目標とした。また、目標の頭数規模に対して粗飼料確保に必要な草地が不足することから、同時期に設立されたTMRセンターに全面委託し、飼料の供給を受けることにした。

・設立にあたっては、①出資は平等性をとり同額としたこと、②構成農家の負債は利子補給を継続して受けるために法人が引き継いだこと、③資産評価は簿価評価（機械、乳牛）で行ったこと、④構成農家が 3 戸であったため経営主 3 人を役員としたこと、⑤構成員は 3 戸の家族 8 人としたこと、⑥社長は年長者としたこと、などを考慮した。検討を始めてから 1 年後の平成 15 年 4 月に 3 戸からなる有限会社北の大地を設立した。

・平成 16 年にフリーストール牛舎を建設し、翌年に経産牛 150 頭規模、構成員 8 名体制で搾乳を開始した。手探りのスタートだったため、技術面では農業改良普及センターからの支援を受けた。

・その後、平成 19 年には、2 名を雇用。21 年には、乾乳牛舎を増設するなど規模を拡大し、22 年には、目標の経産牛 400 頭規模を達成した。

・経営農地については、当初 190ha を構成員からの借地のみであったが、法人設立後 2～3 年で 35ha 離農跡地を購入し、225ha に拡大。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

・設立後 2 年目までは雇用を入れる経済的余裕がなく、休みがとれなかったが、3 年目から雇用する余裕ができた。経営を軌道に乗せるまでには 10 年かかる。

・フリーストール化により飼養技術が入れ替わったことから各自のこれまでのやり方を持ち込みにくいことはよい面であるが、搾乳作業についてはさらに改善を検討する余地がある。

・近隣に先行事例がなく、法人化にあたっての有用な情報が得にくかった。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

・仕事が分担でき、時間管理もしやすいため、労働の効率化が図られる。

・雇用が入ることにより、構成員の意識が変わり、朝 5 時、夕 4 時の 15 分前行動になり、段取りができるようになった。

・休暇が確保された（従業員は週 1、構成員は H23 からは月 2）。

・法人経営であるという意識の切り替えが必要であるが、複数戸法人であることから法人としての合意形成が難しい。

・経営がうまくいけば結果はよいが、悪くなると影響が大きい。

・現役員世代から後継者世代への人脈をはじめとした経営環境の引継ぎが難しい。

〈法人が継続するためのポイント〉

・日常的な接し方から人間関係の円滑化を図ること

・各自が役割の理解を深めて積極的に法人運営に関わること

・ボーナスを支給する等により仕事への楽しみを持てるようにすること

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

・人間関係が重要であり、それぞれの立場（役職）を明確にすることをスタート時点からすること。
法人が動き出してからでは難しい。

・立場の理解を深めるために、専門の講習を受けることも重要。

〈特徴的な活動や取り組み〉

・休暇が取れる酪農を目指し、いとこ同士の親戚 3 戸で法人化。

・TMRセンターを活用することにより、飼料部門の外部化と不足する粗飼料の確保を行い、飼養管理部門に特化し生産性を高めている。

・作業の分業化（4 部門）を行い、効率的な運営を行っている。
部門体制：①搾乳部門、②飼料給与、③機械・建物管理・牛舎のベッドメイキング、④哺育

・育成牛については、農地（粗飼料）の不足により 6 ヶ月齢～分娩 2 ヶ月前まで周年預託を行っている。

〈経営目標と将来の展望 〉

・頭数規模が目標に達したことから、経営収支の一層の改善、社会保険や休暇などの従業員の待遇改善を図り、経営の充実化に努めていく。

・スムーズに後継者へ経営を引き継いでいきたい。

・規模が大きくなるにつれて、作業の分業化が固定してきていることから、次の世代への引継ぎに向けて、後継者世代がいろいろな経験ができるような取り組みをしていきたい。

〈視察等の受入〉

詳細については要相談。代表に事前連絡すること。

連絡先： 01635-5-7088（担当：代表取締役　井上勝敏）